

## 御薄茶「塩竈」・「千賀の浦」

京都 五条大橋の南橋詰橋を下がった高瀬川のほとりにこの付近が平安前期の公卿 源融（みなもとのとおる）の邸宅（六条）河原院の跡であったとされる石碑があります。

河原院は現在の北は概ね五条通から南は六条通、西は柳馬場通から東は鴨川までを占めた（諸説あり）広大で壮麗な邸宅であった。

源融は嵯峨天皇の皇子で嵯峨源氏となり、従一位左大臣に至った朝政の重鎮で邸宅にちなみ河原左大臣と呼ばれており、百人一首の詠み人である。

「塩竈」は、古より歌枕の地として京の都人よりあこがれの地であり、古訓和歌集や伊勢物語など数多くの歌に詠まれています。河原院は「源氏物語」の主人公、光源氏の邸宅「六条院」のモデルとも言われています。

源融が平安時代の貞観六年（八四六年）陸奥出羽按察使に命ぜられ多賀城に赴任した際、塩竈の浦に深く心をよせ、全国に美しいところは多くあるが、塩竈のように優れた景勝の地はないと愛し、京に戻った後、鴨の川辺に六条河原院を建て、ここに塩竈の景色をまねて庭に籬島をつくり、難波（大阪）の御津の浜より毎日潮を汲ませてこれを焼かせつつ、生涯の雅興として楽しんだといわれており、現在も京都の下京区に本塩釜の地名があります。当園の所在地が塩竈町にあり、抹茶「塩竈」は、この故事と町名に因んで名付けられています。

また、薄茶「千賀の浦」は、裏千家第十四代家元の淡々斎宗匠の嘉代子（清香院）御夫人が好まれた御抹茶で、仙台ご出身の嘉代子御夫人が風光明媚な松島塩竈湾をこよなく愛されており、当園先々代が裏千家の老分で淡交会京都初代支部長でありました関係で懇意にして頂き、自ら塩竈の惣名である「千賀の浦」の地名より命銘頂きました。

京都市下京区五条通富小路西入る塩竈町 395

松 籟 園

075-351-5895